

## 水温0.4°Cで活動する野外飼育のニホンイシガメ

小賀野 大一

千葉県野生生物研究会

Activity record of the Japanese pond turtle, *Mauremys japonica* at water temperature 0.4 degrees Celsius in an outside fenced area

By Daiichi OGANO

Chiba Wildlife Research Society, 962-40 Semata, Ichihara-shi, Chiba 290-0151, Japan

以前に、越冬期においてニホンイシガメ(以下イシガメ)の野外飼育場での活動記録を紹介した(小賀野, 2016)。その際、水温1.6°Cでのイシガメ幼体の活動と水温2.1°Cでのイシガメ雄の活動記録を紹介した。今回は、より低温状況下での活動を観察したので報告する。

2019年11月30日、天気は晴れ、この日は関東地方を強い寒気が覆い群馬県の山沿いでは大雪になった。前回の報告と同一場所に設置した野外飼育場(千葉県市原市瀬又)で、2018年生まれのイシガメ幼体(当時1歳)が容器内で活動しているのを発見した。イシガメは、水を張った80Lサイズの越冬用飼育容器の底に敷き詰めた落葉上をゆっくりと移動していたが、一度水面上に頭部を出した後にしばらく水底を歩行してから板の下に入り姿を隠した(図1)。

活動の観察時間は、幼体を確認した9時30分から37分までの約7分間であった。容器の3分の一程度に水深を保った水面の一部は薄氷の張った状態で、水底を移動していたイシガメ付近の水温を測定したところ、0.4°Cであった(図2)。なお、野外飼育をしているイシガメ幼体の越冬用容器は、アライグマやカラスなどの捕食者の侵入防止用ネットのみを張ったハウス内に設置されており、雨風は自然状態とほとんど変わりはない状態だが、水温の安定を図るため1日を通して直射日光の当たらない場所に設置されている。



図1. イシガメ幼体の越冬用飼育容器(上)と薄氷の張る水面の隙間から頭部を出して周囲の様子を伺うイシガメの1歳幼体(下)



図2. イシガメのいる水底付近の水温測定の様子(水温計は0.4°Cを示す)

イシガメ幼体の活動は短時間であったが、観察途中で近くまで行き、容器内の撮影や水温測定をするなどの刺激を与えたために僅かな時間で隠れたものと思われる。越冬地である池や川の水底付近の温度が0.4℃未満になることはめったに無いと考えられることから、越冬期間の低温条件下においてもイシガメ、少なくとも越冬期の初期段階における幼体は活動が可能であると思われる。

#### 引用文献

小賀野大一. 2016. 2015年1月に観察されたニホンイシガメの行動記録. 亀楽 12: 1-3.

---

## シマヘビに補食された淡水性カメ類の卵

小賀野 大一

千葉県野生生物研究会

Freshwater turtle eggs fed by japanese striped snake *Elaphe quadrivirgata*

By Daiichi OGANO

Chiba Wildlife Research Society, 962-40 Semata, Ichihara-shi, Chiba 290-0151, Japan

---

淡水性カメ類の捕食者に関する文献は少ない(例えば, 青木, 1975など)。少し古い記録になるが, 筆者がかつてニホンイシガメの個体群調査を行うために通っていた房総半島を流れる小河川(千葉県富津市)において, シマヘビ*Elaphe quadrivirgata*による淡水性カメ類の卵(以下, カメ卵)の捕食を確認したので, 以下にその事例を紹介したい。

1993年8月11日正午, 当日の天候は晴れ。河川沿いでシマヘビを捕獲し強制嘔吐により胃内容物を調べたところ, 3個のカメ卵を確認した。その際, カメ卵以外の胃内容物は確認されなかった。シマヘビは, 頭胴長1106mm, 尾長298mm, 体重442gの雄の成体であった。カメ卵の種は特定されていないが, 当時この調査地はニホンイシガメ*Mauremys japonica*が優占して生息しており, その他のカメ類としてクサガメ*Mauremys reevesii* と両種の雑種(*M.japonica* × *M.reevesii*)がいずれも少数見られた。シマヘビに捕食されたカメ卵は, 優占率から判断するとニホンイシガメの卵の可能性が高いといえるが, クサガメや雑種の可能性も否定できない。

2010年頃より, この調査地ではアライグマによるカメ類の捕食被害が生じ始め, ニホンイシガメは絶滅状態となり, 今ではその姿を確認することがほとんどできなくなった。一方, 当時カメ卵を捕食していたシマヘビもまた近年見られなくなった。このシマヘビの減少要因は, カメ類がいなくなったことによるものか, アライグマの補食被害を直接受けたものなのかは今のところ不明である。

#### 引用文献

青木良輔. 1975. 三浦半島の爬虫類相(I). 爬虫両生類雑記 3(5):64-65.